



北斗市ホームページ

# 北斗市



茂辺地川

「北斗星スクエア」のある茂辺地区は大自然に囲まれ、北海道の大地を颯爽と走っていた往年の姿を彷彿とさせる。川縁がコンクリートで固められていない茂辺地川が流れ、秋にはサケの遡上が間近で見られる。澤田さんは「同じ市内であつても、茂辺地から見る星空がこんなに美しいとは知りませんでした。感動します。」と話す。

「燈台の聖母トラピスト修道院」は、北斗星スクエアから約8キロと、サイクリングにちょうど良い距離。スギとポプラの並木道を走り、静謐な祈りの地を訪れるのも良い。

石灰岩を採掘する峯朗鉱山からのミネラルが豊富な「峯朗カキ」や「ホッキ貝」などの海産物。北海道水田発祥の地で誕生した「ふっくりんこ」、そして多種多様な野菜や果実。「海の幸」・「山の幸」が豊富な北斗の魅力をぜひ堪能してみてください。



天の川の下で(北斗星スクエアと星空)

## 海と大地に囲まれたまち



燈台の聖母トラピスト修道院

合同会社 青(あお) 代表社員 澤田 導俊 さん

2015年に運行を終了した東京・上野と札幌を結ぶ寝台特急「北斗星」の客車を活用した宿泊施設「北斗星スクエア」を運営する。

2016年、北海道新幹線・新函館北斗駅が開業。かつて青函トンネルをくぐり北斗市を駆け抜けた、同じ「北斗」の名を冠する列車を、市の観光の目玉として地域に残すため、有志でプロジェクトを立ち上げ、クラウドファンディングなどを実施。1ヶ月で約1,700万円が

集まり、同年に寝台車と、シャワー付きロビーカーを有償で譲り受けた。

当初は車両を一般公開していたが、2022年4月、宿泊施設に生まれ変わった。宿泊のみならず、テントサウナや電動自転車といった新たなアクティビティの開発に余念がない。

本業は100年以上続く米穀店の4代目。「北斗星スクエアの経験は本業にも活かしています」と語る。

### 北斗星スクエア



北斗市茂辺地3-31-43  
宿泊期間  
4月末～11月中頃  
オンライン予約のみ

